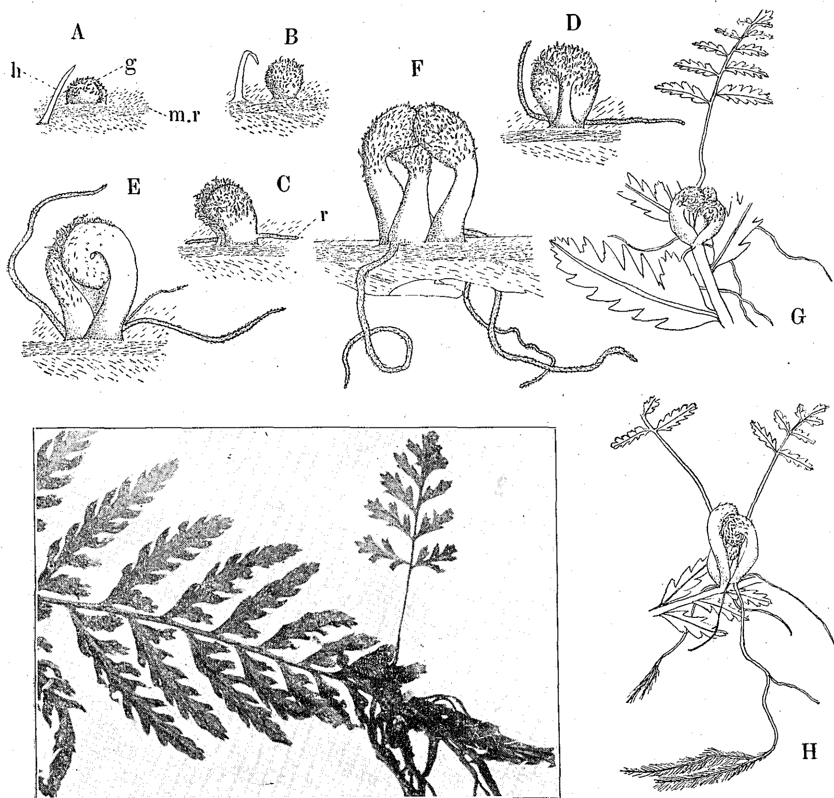
ラレル。根ハ全然缺除スル。個々ノ細胞ハ稍大キク、平均 250 $\mu$ アツテ、葉綠粒ヲ滿シテヰル。植物體ハ非常ニ簡單ナノデ組織的ノ分化ハ殆ド見ラレナイガ、氣孔ト新苗芽ヲ出ス溝邊ニ葉綠粒ヲ有シナイ細長イ細胞ガ 3-4 層アツテ線ヲナシテ居リ、又植物本體ニ葉脈トモ見做サレルカ稍小サイ細胞ガ圖ノ様ニ存在スル。本年ノ材料デハ花ヲ見出スコトガ出來ナカツタガ顯花植物ノ最モ小サイ種類デアル。　（佐 藤 月 二）

## ○ほそばいぬわらびニ生ジタ小苗

昭和 12年 10月 9日、廣島市東端ノ比治山公園（標高 70米）ノ中腹ノ濕地デ、葉面ニ數個ノ Gemma ヲ生ジ、ソノ或ルモノガ小苗トナツタほそばいぬわらび (*Athyrium iseanum* Rosenst.) ヲ發見シタ。コノ附近ハ杉ガ多數生ヒ茂リ、べにしだ・やはらしだ・はりがねわ




A—F. Gemma. G, H. 小苗。G ハ地表ニ達シナイモノ、H ハ地表ニ達シ特ニ根ガヨク發達シテヰルモノ
(g ハ Gemma, h ハ 毛茸、m. r ハ中軸、r ハ根） 寫眞ハ標本ヲ少シク擴大シタモノ

らび・しけちしだ・かなわらび・いはひめわらび・きじのをしだ・やまいぬわらび等ガ叢生シ、ソノ中ニほそばいぬわらびガ相當多ク繁茂シテヰル。其等ヲ見ルト殆ンド Gemma ヲ持チ、或ルモノハ小苗トナツテ、大キク生長シテヰル。カカル事實ガほそばいぬわらびニ生ズルコトハ、文獻其他ニ於テ報告ヲ見タコトガナイノデ、非常ニ珍ラシイト思ヒ、此處ニ報告シテ大方ノ賢明ナル判斷ヲ待ツモノデアル。

扨此等ヲ更ニ詳細ニ觀察シタ結果、Gemma ハ葉面ノ表側ニ生ジ、且ソノ中軸並ビニ側軸(羽片)ノ何レニモ生ジ、1個乃至3個カラ多イ時ハ6個モ生ズル。コノ Gemma ノ生長ノ順序ハ圖ニ示シタ通リデ、始メ軸部ニ僅カニ突起ヲ生ジ、ソレニ細毛ヲ密生スル。ソレガ大キク生長シテ二ツニ分レ、次イデ三ツニ分レテ少サイ嫩芽トナル。ソノ頃同時ニ根ガ發生スル。圖ニ示ス如ク根ハ Gemma ノ根本ノ部ヨリ出ル。斯カル根及嫩芽ハ生長シテ大キクナルガ、コノ際、葉面ノ先端ニ生ジタルモノハ大抵地表面ニ達シ、根ハ地中深ク入リテ、根毛多數生ジ、水分ヲ吸收シテ大キク生長スルノモアルシ、又地表面ニ達シナイモノデモ、大キク生長シテヰル。

コノ Gemma ノ發生スルノハ胞子ガ生ズル初期デアル。即チ胞膜ガ出來タバカリデ、中ノ胞子モ未ダ青イ頃ニ發生スル。然シ之ガ果シテ何處迄生長ヲ續ケルカ、即チ或ル程度迄生長ヲ續ケテ枯死スルノカ、或ハ之ガ1個ノ新植物トシテ本植物ト獨立シテ生長ヲ續ケルカハ今後觀察ヲ續ケテ行カネバ分ラナイ。

然シテ、斯カル Gemma ハコノ地點ノミニ限ツテ生ズルカ否カヲ檢シタトコロ、同ジク廣島縣水内村惠下谷ニ於テ採集シタほそばいぬわらびニモ、カカル Gemma ガ生ジテヰル。之ヲ以テ見ルニ、カカル性質ハ後天的ノモノデナク先天的ニほそばいぬわらびニアル樣ニ思ハレル。尙カカル Gemma ノ生ズル羊齒トシテハ、緒方正資氏著ノ「日本羊齒圖集」ノ Pl. 83 ノおきなはきじのを及 Pl. 107 ノおほとらのをしだニ於テ示サレテヰル。又 Gemma トイフ名稱モ、コノ書ヨリ引用シタモノデアルコトヲ附記シテ置ク。（森田 茂）

## ○再ビものし織ニ就イテ

本誌13卷7號ニ載セタものし織ニ關スル筆者ノ記事ヲ見タ三宅島ノ林憲氏ハ親切ニモ次ノヤウナ手紙ヲ寄セラレタノデ同織物ニ關スル大體ノ沿革ガ判明シタ。玆ニ再ビ本誌上ヲ藉リテ同氏ノ手紙ノ全文ヲ掲ゲ諸賢ノ參考ニ供スル。「植物研究雜誌第13卷7號ニ本島特產ものし織ニツキ御記載ガゴサイマシタガ本年春大島支廳三宅島出張所ノ千葉技手カラものし織ノ文獻、材料、其他ヲ聽カレタ事ガアリ、ソレガ一部本文ノ材料トナツテヰルカニ見エルノデ、責任(?)ヲ感ジ小生ノ知ル限リヲ御參考マデニ申上ゲタイト存ジマス。文獻トシテハ今迄ニ下記ガ唯一ノモノデシタ。

伊豆七島圖繪（明治35年8月5日發行 風俗畫報第254號增刊)植物の部。をり、此草苧麻の同類なり此纖維にて織りたる布をものし織と云ふ。此布20-30年の久しきを保つと云ふ。三宅島の坪田村の特產なり。